いんざい里山マップ

南西部版

～民話と伝承の里じっくりコース～

みどころ　草深の森

草深の森は田畑、小川や住宅地に囲まれ、「そうふけふれあいの里」の近く、約 8.8ha ある市民の「憩いの森」だ。キンラン、ヒトリシズカ、チゴユリ、ジュウニヒトエ、ヤマユリなど四季の植物、珍しい虫類、上空を舞うサシバ、ノスリ、森の入り口近くの池にはニホンアカガエルの卵塊も見られる。四季を通じて、自然との出会いがある。遊歩道も整い、江戸時代に開拓の安全を祈った大日塚（だいにちづか）もある。

チゴユリ　ヒトリシズカ

オオハクチョウ

市内の里山で見られる　野鳥

里山を象徴するタカ類であるサシバ、ノスリ、オオタカ、ハイタカ、ハヤブサのほか、ツミ、チョウゲンボウ、チュウヒ、ミサゴなどが市内の谷津を中心に、冬から初夏にかけて見られる。オオハクチョウは越冬の南限に近く、コハクチョウの群れも越冬する。

春はツバメ、イワツバメ。住宅近くの草地の上空にヒバリも多い。田のあぜ道にはコチドリ。白いダイサギ、チュウサギに混じって、ゴイサギや橙色にお化粧したアマサギも。葦原ではオオヨシキリ、セッカ。ツツドリの声が消えた後も、ウグイス、ホトトギスの声は夏中、里山に響く。

冬の水辺にはマガモ、オシドリ、キンクロハジロ、ヨシガモ、ヒドリガモ、トモエガモ、カンムリカイツブリなど。小鳥類はジョウビタキ、ルリビタキ、カシラダカ、ベニマシコ、アカゲラ、アカハラ、シロハラ、シメ、モズ、ツグミ、タゲリ、稀にトラツグミ、キクイタダキも見られる。

一年中いるのは人気のカワセミやアオサギ、オナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、ハクセキレイ、オオバン、カイツブリなど。最近は団地にイソヒヨドリも現れる。メジロは市の鳥、ホオジロは県の鳥、国鳥キジは「ケーン、ケーン」と声高く鳴き存在をPRする。

日本には約600種の野鳥がいるが、市内では95種が確認されている（印西市「平成27年度自然環境調査」）。カワウ、ムクドリ、サギのふん害に悩む地域も多い。

アマサギ

ツルニンジン（ジイソブ）

結縁寺

頼政塚

コブシ

ナガサキアゲハ

ノコギリカミキリ

師戸川

オオキンケイギク
（特定外来生物）

地域の特色

北は千葉ニュータウンエリアで、マンション群、戸建て住宅、商業ビル、企業ビル等が建つ。西は東京電機大学のキャンパスがあり、風力発電のブレード（羽根）が見える。また、南西の市境付近の谷津には、ハンノキ林が広がり豊富な湧水が見られる。谷津の南には武西（むざい）集落があり、市境の神崎川に沿って水田が続く。中央部には、朝日新聞社／（公財）森林文化協会主催の「にほんの里 100 選」に選ばれた結縁寺（けちえんじ）や江戸期に新田開発された草深（そうふけ）地区がある。南東部には草深を源流とする師戸川（もろとがわ）が流れ西印旛沼に流れ込む。河口東には中世の師戸城跡がある。

古老の話

- 昔はここら辺でもウナギが捕れて、よく食べたもんだ。（戸神）
- 田植えが終わるとにぎやかに早苗饗（さなぶり）をやっていたよ。今でも派手ではないが、やっているところもあるよ。
※早苗饗とは、田植えを終えた祝いの祝宴。（草深）
- 田んぼの周りの林には渡りのタカやホトトギスなどがやってきているが、昔と比べるとエサのカエルや昆虫などがずっと少なくなったのでこれからどうなるか心配だなあ。（吉田）
- この辺りの田んぼは、江戸時代に新田開発したところだ。そのころ作ったため池や堀の跡が今でも残っているよ。（草深）
- 目の前の田んぼも 50 年位前は沼だったよ。すぐそばに、渡し場もあった。（岩戸の渡し場跡）

何の写真かわかるかな？答えはウラを見てね！